

合格体験記

氏 名:

担任講師:

先生

在籍校舎:

西日暮里

校

進学先

中央大学 総合政策学部 国際政策学科

その他
合格校

獨協大学、武蔵大学、東洋大学、神田外語大学

*入試に役立った先生のアドバイス・勉強方法や、合格につながった体験・エピソード等を書いてください。

受験が大切なこと、それは継続と謙虚さ、そして支えてくれる人の存在と心の余裕だと思ふ。私は高2まで部活と遊びに明け暮れていた。それでも少しは勉強しよう、高1の時は1日1時間、高2では2時間勉強していた。今思えば勉強習慣をつけておいて良かったと思ふ、という。後悔しているのは授業の予習復習や問題演習ばかりして、単語や古文単語は小テストの前日のみ、漢字は苦手だった。全然力、こいたことだ。世界史も授業を聞くのは好きだ。たのび単語や流れを大体把握していたが細かい知識や年号、地図は後書きにしておいた。そのせいで普段からコンコン、これば定着していたことが全然身についておらず、高3になつてからその遅れを取り返さべく死ぬほど勉強するハメになつた。逆に英語の文法問題は1日20問、長文や現代文、古典の文章は1日1問ずつ解いていたので実力がついた。継続は力なり、である。また、自分から勉強する事も大切だ。ただ塾に通い先生の指示に従つて勉強するだけでは自分の力を伸ばすことは出来な。先生が課した課題を完璧にこなすのはもちろん、学習プランを提案して自ら進んで学ぶ、自分からやる所、苦手な所を先生に重点的にバツアツプしてもらふ形が大切である。そうすればやる気も湧くし、実力も自然とつく。謙虚さは自分の実力を過信せず他人を見下さない事である。模試で良い成績が取れているからとい、その他の受験生や彼らの志望校を見下す取は志望校には受からない。逆に自分の実力に見合ふ、受験生同士励ましあつた人は皆受かっている。何故か？それは最初に書いた「心の余裕」がキ

ワークだと思はる。受験期の間、心に余裕を持つことは難しいだろう。自分を徹底的に追い詰める人こそ、焦りから誰かを攻撃して優越感に浸り不幸を解消しようとする。でもそれは本当の心の余裕ではない。息抜きだ、と必要だ。たまには一日好きなことをしたっていい。その日の勉強量を取り返す必要はあるけど。不幸や悩みがたまれば、仲間や学校、塾の先生に話そう。稲門の先生はよくフレンドリーで世間話や悩み事まで何でも聞いてくれる。私もすぐ落ち込む性格だ、たのび事あるごとに担当の先生や塾長に自分の悩みを打ち明けた。彼らは教えるプロでもあり話を聞くプロでもあるので相談が終る頃にはまた頑張ろうという気持ちになれた。世界史が苦手で全然覚えられなくて泣いた時も先生の言葉があったからまた立ち上がることもできた。コツコツと積み上げた学び、支えてくれた仲間や先生がいてくれたから生まれた心の余裕、それが志望校に合格することが出た要因であると思はる。最後に甲子園受験から大学受験までお世話になった稲門学園と塾の先生方に心からの感謝を記そうと思はる。本当にありがとうございました。